

真庭SDGsパートナー制度・真庭SDGs円卓会議		取組開始時期	2018年～	取組の カテゴリ	地域活性化
1. 団体名	岡山県真庭市	2. 連携先の 団体	真庭市のSDGsの取組に賛同する個人、企業、団体		
3. 取組 目的	SDGsの取り組みの情報共有や連携を促進させ、SDGsを市民運動として盛り上げる		4. 関連する ゴール		

5. 取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

●真庭SDGsパートナー

真庭市役所及び市のSDGsの取組に賛同する企業、団体、個人が連携し、SDGsの取組のより一層の推進を図ることを目的として、SDGsパートナーになっていた人、企業、団体を募集
真庭SDGsパートナー宣言書を作成いただき、市のHPに掲載
(2020年10月末日現在：158団体、15名)

●真庭SDGs円卓会議 イメージ



市民運動への拡大

SDGsの達成

||

真庭ライフスタイルの実現



真庭SDGs円卓会議結成大会の開催
2019年10月27日（日）

内容：①基調講演 藻谷浩介氏
②SDGs円卓会議
・真庭SDGsパートナーの取組紹介
・交流会

真庭ライフスタイルとは…
真庭での地域資源を生かした、新しい価値観による生活スタイル

取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

SDGsの理念、目標を理解し、真庭市が目指すSDGs未来杜市の実現に向けて、構成員自らが可能な取り組みを積極的に実行し、その取組を広く周知する

ステークホルダーとの連携

円卓会議を真庭市長と民間からの代表者とする共同代表とし、官民一体となった推進体制を構築。
SDGsについて、考え実行していくためのプラットフォームとして、SDGsの市民運動を目指す

モデル性・波及性

すべての構成員が一致協力して推進する体制をどう整えていくのかという点で、他の地域でも参考・実施できるものと考えている。

自由記述欄

平成31年 広報真庭 12月号



基調講演
 榎日本総合研究所
 主席研究員 漢谷浩介さん

SDGsと「里山資本主義」真庭の挑戦

漢谷さんは冒頭、SDGsを「元気が続く世界を作りましょう」ということと説明し、「人口が減っているなど言われているが、真庭市は外から見ると光輝いている地域に見える」と話を始めました。

実際には殺人事件や自殺が減っているのにそれが「増えている」と思っている人が多いなどを例に挙げ、「人間はイメージで物事を考えるが、そのイメージは50年前の事実を親から子へ受け継いでいるだけのもの」とし、「今や時代は変わり、「SDGs」な世界をつくるために東京である必要はなく、真庭市のような地域こそチャンスがある」と続けました。

また、漢谷さんは「今ある人工物のうち、千年後の日本に残っているものは、田畑、寺社、水路、鉄筋コンクリートの建造物や道路などは千年の間に10回以上の作り直しが必要だが、木造の建造物は壊れたところだけを取り換えることができる」と説明しました。

さらに、「世界中で困っているのは、水と緑。日本には水も緑もたくさんある。これだけ、水と緑が多い国は少ない」と話し、日本の課題と言われているエネルギー自給についても、「真庭市では、木を燃料にして発電をすることもできている。水と緑があったら、エネルギーや食料を自給できることは恵まれている」と力説しました。



円卓会議は真庭SDGsパートナー制度に登録している市民や企業、団体を構成（円卓会議参加は39団体と15人）

真庭SDGs円卓会議結成大会
 元気の続くまちづくり推進

10月27日、久世エスバスセンターで真庭SDGs円卓会議結成大会が開かれました。SDGsは関連する世界共通目標。会場には真庭SDGsパートナーとして登録されている団体の代表者や高校生たちをはじめとする約400人の参加者が集まりました。漢谷さんの講演の後、円卓会議の2人の顧問と日人の幹事からそれぞれSDGsの取り組みの紹介や決意表明が行われ、高校生幹事の池永さんと藤中さんのあいさつで締めくくられました。



漢谷さんの真摯な拳手で語る



SDGsハブを配る高校生スタッフ

市政トピックス
 TOPICS

近くの人と意見交換

結成式

この日、円卓を囲んだのは、来賓の海堀内閣府地方創生推進事務局局長、講師の漢谷さん、顧問を務める河野県議、古南真庭市議会議員、幹事を務める、市民、議会、商工業、農業、林業、医療、福祉、環境、教育、行政といった各分野の代表の皆さんです。その発言の一部を紹介します。

趣旨説明
 真庭市総合計画審議会
 会長 大月隆行さん



SDGsは、いつか誰かがやってくれるものではなく、今我々が真庭でやっていくもの。円卓会議をプラットフォームとして協力、連携していこう。

取り組みと決意表明
 真庭農業協同組合
 代表理事組合長
 矢谷信道さん



瀬戸内海のカキ殻を肥料として利用し、稲作をする循環環境保全型事業をしている。里海と里山の連携で安心安全な真庭の農業を推進する。

取り組みと決意表明
 真庭バイオエナジー発電株式会社
 社長 中島浩一郎さん



木材を燃料にする発電所は順調に稼働しており、真庭の力を感じる。森林をベースにした仕事はまだまだある。森林を生かしていきたい。

取り組みと決意表明
 岡山県中学校長会真庭支部
 支部長 杉 徹郎さん



総合的な学習の時間に各地域の特色を生かした学習をしている。また、地元企業の協力で職場体験なども。地域に貢献する生徒を育成する。

閉会あいさつ



SDGsの取り組みを加速するためにパートナーシップは欠かせない。将来の世代にツケを回さないため、私たち市民一人一人が行動する。